

令和8年度 歯科衛生士科

3年次

授業計画〈シラバス〉

〒770-0003

徳島市北田宮1丁目8番65号

一般社団法人 徳島県歯科医師会

会立 徳島歯科学院専門学校

歯科衛生士科 講師紹介
3年

専門分野	授業科目	単位数	時間・回数	所属・講師名	資格	臨床経験	ページ
基礎分野	人間と生活 情報リテラシー	1	8時間 90分×4	徳島歯科学院専門学校 歯科衛生士科 専任教員 宮川 章代	歯科衛生士	有	1
	人間と生活 臨床心理学	1	16時間 90分×8	公認心理師 原田 リョウ 先生	公認心理師	有	2
専門分野	臨床歯科医学 高齢者歯科	1	20時間 90分×6	徳島大学大学院医歯薬学研究部 顎口腔疾患制御学分野 津島 文彦 先生	歯科医師	有	3, 4
			90分×4	徳島大学大学院医歯薬学研究部 顎口腔疾患制御学分野 青田 桂子 先生	歯科医師	有	
	歯科予防処置論 口腔保健管理	2	32時間 90分×16	徳島歯科学院専門学校 歯科衛生士科 専任教員 宮川 章代	歯科衛生士	有	5, 6
選択必須分野	歯科診療補助論 医療安全	1	16時間 90分×8	診療報酬支払基金 徳島支部 並木 一郎 先生	歯科医師	有	7
	摂食機能訓練法	2	32時間 90分×6	徳島大学名誉教授 市川 哲雄 先生	歯科医師	有	8, 9
			90分×6	徳島大学大学院医歯薬学研究部 口腔顎顔面補綴学分野 永尾 寛 先生	歯科医師	有	
			90分×4	徳島大学大学院医歯薬学研究部 口腔顎顔面補綴学分野 藤本 けい子 先生	歯科医師	有	
	隣接医学 救急蘇生法	1	16時間 90分×6	徳島大学名誉教授 吉田 秀夫 先生	歯科医師	有	10
			90分×2	徳島市消防局 警防課 職員			
	隣接医学 内科学	1	16時間 90分×1	日比野病院 院長 日比野 真吾 先生	医師	有	11, 12
			90分×1	たかはし内科 院長 高橋 安毅 先生	医師	有	
			90分×1	おおしま内科皮フ科クリニック 院長 大島 康志 先生	医師	有	
			90分×1	鈴木内科 副院長 鈴木 直紀 先生	医師	有	
90分×1			東洋病院 院長 谷 憲治 先生	医師	有		
90分×1			田中医院 院長 田中 治 先生	医師	有		
90分×1			住友内科病院 理事長 上田 由佳 先生	医師	有		
90分×1			あおぞら内科 院長 馬木 良文 先生	医師	有		
備考							

科目分野	基礎分野		科目名	情報リテラシー	
学年	3年次		学期	前期	
時間数	8 時間 (90 分 × 4 回)		単位数	1 単 位	
授業形態	講義		使用場所	2F教室(3)	
担当教員	宮川 章代	歯科診療所で歯科衛生士として実務経験有り			
授業の目的(GIO)					
医療保険制度のもとで行う歯科保険医療の実務について、医療事務も含め歯科衛生士が身につける実務の基本を理解する。					
授業の概要					
医療保険制度の中でも、歯科保険医療の実務について学び、カルテの表書きや、診療報酬明細書の記載方法など、歯科衛生士が身に付けるべき歯科保険医療の具体的な実務について理解する。					
到達目標(SBOs)					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療保障制度の概略を理解する。 2. 医療年金制度の中でも歯科保険医療の実務について学ぶ。 3. 診療報酬明細書の記載方法について学ぶ。 4. 傷病名と処置内容、治療の流れを理解する 5. マイナンバーカードについて学ぶ 					
授業計画					
回	大項目	中項目	内容	到達目標	担当教員
1	医療保険制度の仕組み	医療保険について 公費負担について	医療保険の種類・仕組み 公費負担の種類・仕組み	1	宮川
2	保険医療の実務	診療報酬の請求と支払い	カルテ記載内容を理解する上で重要な 略称や表書きについて学び、覚える	1. 2. 3	宮川
3	医療管理	医療管理	マイナンバーカードについて 健康保険証の記載内容の確認	3. 4. 5	宮川
4	医療管理	医療管理・まとめ	窓口徴収・予約システム・ 診療報酬請求に関する知識の確認	3. 4. 5	宮川
教科書					
歯科衛生士のための衛生行政 社会福祉 社会保険 第9版 医歯薬出版株式会社、配布プリント					
参考書					
試験の受験資格					
3分の2以上の出席					
成績評価の方法					
授業態度、出席状況を加味して、学期末試験成績を主に評価し可否を判定する。100点満点中60点以上を合格とする。					
備考					

科目分野	基礎分野		科目名	臨床心理学	
学年	3年次		学期	前期	
時間数	16 時間	(90 分 × 8 回)	単位数	1	単位
授業形態	講義		使用場所	2F教室(3)	
担当教員	原田 リョウ	児童養護施設にて公認心理師として実務経験あり/博士課程にて研究に従事			
授業の目的(GIO)					
臨床心理学についての知識を学び、体験を通して理解する。					
授業の概要					
対人援助職として身に付けておくべき臨床心理学の基礎について講義を行う。定期的にワークを実施し、自己理解から他者理解を体験的に深めることを自分に引き寄せて理解してもらう。					
到達目標(SBOs)					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 各領域の臨床現場で、どのように臨床心理学が活用されているのかを説明できる。 2. 発達過程で起こりうる問題と課題について説明ができる。 3. 青年期特有の心のメカニズムについて、自身と照らし合わせて述べるができる。 4. さまざまな精神障害の種類について概説できる。 5. ストレスのメカニズムについて理解し、対処法を具体的に考えることができる。 6. コミュニケーションにおける意識と姿勢について、体験的に学び、その影響を述べるができる。 7. 対人援助職としてメンタルヘルスへの向き合い方を理解し、対処方法を見つける事ができる。 8. 多様な背景を持つ他者へ共感・受容する方法を実践することができる。 9. ワークを通して、自己理解と他者理解を深める。 					
授業計画					
回	大項目	中項目	内容	到達目標	担当教員
1	臨床心理学とは	ガイドランス/臨床心理学の領域/臨床心理学の捉えた方	各領域での臨床心理学のアプローチを学ぶ。自己理解ワークを行う。	1.2	原田
2	発達と臨床心理学	ライフサイクル理論/発達と問題/ワーク	発達理論の観点から、発達上の課題について学ぶ。描画法のワークを行う。	2.3	原田
3	青年期の心	青年期のパーソナリティ/思春期のメンタルヘルス/自己実現/ワーク	青年期における自己の形成の過程を学ぶ。自身の振り返りを行う。	2.3	原田
4	精神障害と援助	精神医学と臨床心理学の違い/心の病気の仕組み/援助要請	精神障害の理解の促進と、援助要請について学ぶ。	2.4	原田
5	ストレス対応	ストレスチェック・コーピング/マインドフルネス/ワーク	ストレスの仕組みと対処法を学ぶ。ストレスチェックを行い、自己理解を深める。	2.5.6	原田
6	コミュニケーション	非言語コミュニケーション/傾聴技法/自己一致/ワーク	対人援助職として必要なコミュニケーションについて学ぶ。ロールプレイを行う。	2.7.8	原田
7	セルフケア	テスト・論述/セルフケア/カウンセリングの意義	前半はテストと論述を行う。後半は、セルフケアについてワークを用いて振り返る。	2.9.10	原田
8	ダイバーシティ教育/振り返り	ダイバーシティ教育/自己理解と他者共感/ワーク	多様な他者を理解する方法を、自己理解を含むワークから学ぶ。	2.11	原田
教科書					
プリントを配布します。					
参考書					
必要に応じて紹介します。					
試験の受験資格					
3分の2以上の出席					
成績評価の方法					
授業態度、出席状況を加味して、第7回授業で実施するテストと論述から主に評価し可否を判定する。100点満点中60点以上を合格とします。					
備考					
知識を受け身的に得るのではなく、ワークなどに積極的に参加すること。毎回の授業ごとに、リアクションペーパー(感想、学んだこと、質問等)を提出してもらいます。					

科目分野	専門分野	科目名	高齢者歯科学		
学年	3年次	学期	前期		
時間数	20 時間 (90分 × 10回)	単位数	1	単位	
授業形態	講義	使用場所	2F教室(3)		
担当教員	津島文彦, 青田桂子 大学病院で歯科医師として実務経験あり				
授業の目的(GIO) 歯科衛生業務を行うために必要な高齢者の身体的・心理的特徴と歯科治療を理解する。					
授業の概要 高齢者の様々な特性を理解すること、高齢歯科診療の実際と歯科診療補助、高齢者(要介護を含む)の歯科保健指導などの知識を獲得することを目的とします。					
到達目標(SBOs) <ol style="list-style-type: none"> 1. 全身及び口腔の加齢と変化を説明できる。 2. 人口の超高齢化による社会環境の変化を説明できる。 3. 主要な死亡原因は何か説明できる。 4. 高齢者にかかわる法律を説明できる。 5. 高齢者の全身疾患と口腔疾患の特徴を説明できる。 6. 高齢者の居住する場所の種類と特徴を説明できる。 7. 高齢者とのコミュニケーションにおいて配慮すべき点について説明できる。 8. 認知症ケアについて説明できる。 9. 高齢者の日常生活動作を評価する方法を説明できる。 10. バイタルサインの種類とその内容を説明できる。 11. 高齢者の状態を把握するために必要な血液検査について説明できる。 12. 高齢者の低栄養について説明できる。 13. 高齢者が服用することが多い薬物の相互作用について理解する。 14. 高齢者の口腔健康管理を説明することができる。 15. 急性期における口腔健康管理につき説明できる。 16. 要介護高齢者への口腔ケアについての手技や注意点を説明できる。 17. 高齢者の摂食嚥下障害の原因と症状を説明できる。 18. 高齢者の摂食嚥下リハビリテーションを説明できる。 19. 高齢者の誤嚥性肺炎の原因と口腔健康管理を説明できる。 20. 歯科訪問診療の意義と目的を説明できる。 					
授業計画					
回	大項目	中項目	内容	到達目標	担当教員
1	高齢者を取り巻く社会と環境	・高齢社会と健康・高齢者の健康に関わる法制度・地域包括ケアシステム・高齢者の居住形態・施設など	・高齢者歯科の現状・高齢者の健康と疾病など	1,2,3,4,6	青田
2	加齢による身体的・精神的変化と疾患	・加齢に伴う身体的機能の変化・高齢者の精神・心理的变化	・全身的な変化・口腔、咽頭領域の加齢変化	5,7	〃
3	〃	・高齢者に多い全身疾患・障害および口腔疾患	・老化による心理的变化・主たる死因となる疾患など	8	〃
4	高齢者の状態把握	・高齢者の生活機能評価・高齢者歯科と臨床検査	・生活、ADL評価・バイタルサイン・血液検査など	9,10,11	〃
5	〃	・高齢者の栄養状態・高齢者の薬剤服用	・高齢者の栄養評価・薬物の相互作用など	12,13	津島
6	口腔健康管理	・高齢者の口腔健康管理のための評価・健康・周術期・急性期の高齢者の口腔健康管理	・口腔アセスメント・高齢者の口腔健康管理の目的と基本	14,15	〃
7	〃	・回復期・慢性期・終末期の高齢者の口腔健康管理	・各ライフステージにおける口腔健康管理の目的と基本	16	〃
8	摂食嚥下リハビリテーション	・摂食嚥下の評価・嚥下訓練と対応	・摂食嚥下のモデル・スクリーニングテスト・誤嚥性肺炎・嚥下訓練など	17,19	〃
9	〃	・在宅・介護施設における摂食嚥下リハビリテーション	・在宅・介護施設における摂食嚥下リハビリテーションの特徴など	18	〃

10	高齢者に関わる医療と介護	・在宅医療の概要・訪問看護や訪問介護と歯科の役割・訪問歯科医療	・リハビリテーション医学とは・在宅医療とはなど	20	〃
教科書					
歯科衛生学シリーズ「高齢者歯科」(医歯薬出版)、配布プリント					
参考書					
試験の受験資格					
3分の2以上の出席					
成績評価の方法					
授業態度、出席状況を加味して、学期末試験成績を主に評価し合否を判定する。100点満点中60点以上を合格とする。					
備考					
事前に授業内容を予習し、積極的な姿勢で授業に臨むこと。					

科目分野	専門分野	科目名	口腔保健管理法		
学年	3年次	学期	前期		
時間数	32 時間 (90 分 × 16 回)	単位数	2	単 位	
授業形態	講義、実習	使用場所	2F教室(3)		
担当教員	宮川 章代	歯科診療所で歯科衛生士として実務経験あり			
授業の目的(GIO) 主要3科目を総合的にとらえ、歯科衛生士が臨床において行う業務として個々の患者に適した口腔保健プログラムを作成、実践できる能力を習得する。					
授業の概要 生涯を通じた口腔保健管理や各ライフステージの特徴にあった口腔保健管理計画に必要な実践力と、臨床に対応できる能力を身につける。					
到達目標(SBOs) <ol style="list-style-type: none"> 1. 口腔の健康は、人々の生活の質に寄与していることを理解する。 2. 健康は、生きがいなどをもっていることと深くかかわっていることを理解する。 3. 学習援助型健康教育における専門家の役割を理解する。 4. う蝕のリスク評価について活用法と限界が理解できる。 5. フッ化物応用における薬剤の安全を配慮した選択と応用が実施できる。 6. 歯周治療における歯科衛生士の役割のひとつであるプラークコントロールを成功させる知識と技術を習得する。 7. 歯周治療の継続管理についてセルフケアとプロフェッショナルケアの役割分担を理解し、専門的処置を実施できる。 8. ライフステージごとの口腔内状況が理解できる。 9. ライフステージごとの個人に対応した適切な口腔保健管理が実施できる。 10. 要介護高齢者に対して全身状態・口腔内の状況の評価をし、口腔ケアが実施できる。 11. 口腔内観察をするための診査・測定ができる。 12. 口腔内診査や問診で得られた情報から問題点を指摘できる。 13. 個人に適したプロフェッショナルケアにおける操作テクニックができる。 14. 口腔保健管理について理解し、継続管理お計画を組み立てることができる。 15. 業務記録の必要性を説明できる。 16. 歯科衛生士の指導過程が説明できる。 					
授業計画					
回	大項目	中項目	内容	到達目標	担当教員
1	口腔疾患予防の臨床	口腔疾患予防の基礎知識	歯科保健行動、歯科健康教育	1,2,3	宮川
2	口腔疾患予防の臨床	口腔疾患予防の基礎知識	歯科保健行動、歯科健康教育	1,2,4	宮川
3	生涯を通じた口腔保健管理法	口腔保健管理の実際	予防管理法について	4,5,6,8	宮川
4	生涯を通じた口腔保健管理法	口腔保健管理の実際	予防管理法について	4,5,6,9	宮川
5	生涯を通じた口腔保健管理法	口腔保健管理の実際	ライフステージごとの口腔保健管理 特別な配慮が必要な人の口腔内の状況と口腔保健管理	8,9	宮川
6	生涯を通じた口腔保健管理法	口腔保健管理の実際	包括支援センター 老人保健事業としての口腔保健管理	8,9	宮川
7	生涯を通じた口腔保健管理法	口腔保健管理の実際	介護保険と口腔保健管理 要介護高齢者への口腔清掃方法	8,9,10	宮川
8	生涯を通じた口腔保健管理法	口腔保健管理の実際	介護保険と口腔保健管理 要介護高齢者への口腔清掃方法	8,9,10	宮川
9	口腔観察と口腔清掃	口腔観察と記録	口腔観察と記録 ホームケアとプロフェッショナルケア	8, 11, 12, 13, 14	宮川
10	口腔観察と口腔清掃	口腔観察と記録	口腔観察と記録 ホームケアとプロフェッショナルケア	8, 11, 12, 13, 15	宮川
11	口腔観察と口腔清掃	口腔観察と記録	口腔観察と記録 ホームケアとプロフェッショナルケア	8, 11, 12, 13, 16	宮川
12	業務記録	業務記録の基礎知識	業務記録	15, 16	宮川

13	口腔保健管理	臨床予備実習	口腔保健管理実習	4,5,11,12,13, 14	宮川
14	口腔保健管理	臨床予備実習	口腔保健管理実習	4,5,11,12,13, 14	宮川
15	口腔保健管理	臨床予備実習	歯周疾患に対する口腔保健管理 (メンテナンス)	6,7,11,12,13,14	宮川
16	口腔保健管理	臨床予備実習	歯周疾患に対する口腔保健管理 (メンテナンス)	6,7,11,12,13,15	宮川
教科書 最新歯科衛生士教本 保健生態学 第3版, 最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版					
参考書 最新歯科衛生士教本 口腔保健管理 全国歯科衛生士教育協議会 監修					
試験の受験資格 3分の2以上の出席					
成績評価の方法 授業態度、出席状況を加味して、学期末試験成績を主に評価し可否を判定する。100点満点中60点以上を合格とする。					
備考					

科目分野	専門分野	科目名	医療安全		
学年	3年次	学期	前期		
時間数	16 時間 (90分 × 8回)	単位数	1	単位	
授業形態	講義	使用場所	2F教室(3)		
担当教員	並木一郎	大学で歯科医師として実務経験有り			
授業の目的(GIO)					
安全な歯科医療を提供するために、医療従事者として医療安全の基本を理解し医療事故を未然に防ぐ知識を習得する。					
授業の概要					
医療安全の概念を把握し、歯科医療の現場での対策について学ぶ。					
到達目標(SBOs)					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療法で義務付けられている内容を理解する。 2. 医療安全の概要とその対策を説明できる。 3. インシデント・アクシデント報告の目的を具体的に述べるができる。 4. 偶発事故や緊急時の対応を選択することができる。 5. 歯科医療における感染症の概念とその対策を説明できる。 6. スタンダードプレコーションを具体的に説明できる。 7. 感染事故時の対応を判断することができる。 8. 手指消毒やグローブの正しい装着・脱着が実施できる。 9. 滅菌と消毒の定義が説明できる。 10. 滅菌、消毒、洗浄の方法について説明できる。 11. 消毒剤の特徴と用途について説明できる。 12. 歯科用器材に応じた滅菌、消毒、洗浄を実施できる。 13. 医療廃棄物の分類と分別を説明できる。 					
授業計画					
回	大項目	中項目	内容	到達目標	担当教員
1	医療法と歯科衛生士	安全管理	医療法と歯科診療における医療安全管理	1.2.3	並木
2	医療法と歯科衛生士	安全管理	医薬品の安全管理 医療機器の安全管理	1.2	並木
3	感染予防対策	感染予防対策の基本 歯科診療における 感染予防対策の実践	標準予防策 リスクマネジメント	3.4.5.6	並木
4	滅菌・消毒・洗浄の基本	歯科診療における感染リスク	器具・器械の滅菌、消毒、洗浄の実践	8.9.10.11. 12	並木
5	医療従事者の感染予防対策、廃棄物処理	血液・体液暴露事故対策、針刺し事故防止対策、廃棄物処理	針刺し切傷事故発生後の対応管理と感染性廃棄物	4.7.13	並木
6	医療事故・インシデント	医療事故・インシデントとは	歯科医療のインシデント、アクシデント事例と回避策	3.4.7	並木
7	〃	〃	医療安全の観点から見た 歯科診療シーン毎の注意と回避策	3.4.7	並木
8	医療安全と歯科衛生士	医療安全と歯科衛生士の役割と期待	第1回～7回授業まとめ	1～13	並木
教科書					
歯科衛生シリーズ 歯科診療補助論 第2版 医歯薬出版株式会社					
試験の受験資格					
3分の2以上の出席					
成績評価の方法					
授業態度、出席状況を加味して、学期末試験成績を主に評価し可否を判定する。100点満点中60点以上を合格とする。					
備考					

科目分野	選択必修科目		科目名	摂食機能訓練法	
学年	3年次		学期	前期	
時間数	32 時間	(90 分 × 16 回)	単位数	2	単 位
授業形態	講義		使用場所	2F教室(3)	
担当教員	市川哲雄 永尾 寛 藤本けい子				
授業の目的(GIO) 摂食嚥下機能に関連した生理、解剖を正しく理解し、摂食嚥下障害がどのようなものであるかを認識する。また、この障害に対するリハビリテーションのための専門的知識、技術および態度を習得する。					
授業の概要 講義を主体として、実際の臨床現場で役に立つ知識、技術および態度を体得する。					
到達目標(SBOs) 1. 摂食嚥下リハビリテーションを理解する 2. 摂食嚥下に関連した生理、解剖を概説できる。 3. 咬合と咀嚼を理解する 4. 咬合と咀嚼の評価方法を概説できる 5. 栄養管理を理解する 6. 発達と加齢に伴う細胞、組織、器官の形態的および機能的な変化を概説できる。 7. 先天性疾患に伴う細胞、組織、器官の形態的および機能的な変化を概説できる。 8. 摂食嚥下リハビリテーションを概説できる。 9. 多職種連携に関わる関連職種と歯科衛生士との連携の在り方を説明できる。					
授業計画					
回	大項目	中項目	内容	到達目標	担当教員
1	リハビリテーション総論	摂食嚥下リハビリテーション	摂食嚥下リハビリテーションの意義	1	市川
2	リハビリテーション総論	高齢社会	高齢社会の制度と口腔健康管理	1	市川
3	摂食嚥下のメカニズム	摂食嚥下に関わる解剖学	摂食嚥下に関連した器官の構造	2	市川
4	摂食嚥下のメカニズム	摂食嚥下に関わる生理学	摂食嚥下に関連した器官の機能	2	市川
5	咬合と咀嚼の管理と評価	咬合と咀嚼機能	摂食嚥下と義歯・咬合の役割	3, 4	市川
6	栄養管理	栄養評価とケア	栄養スクリーニングとアセスメント	5	市川
7	病態別摂食嚥下障害	発達期の摂食嚥下障害	小児の摂食嚥下障害	6, 7	永尾
8	病態別摂食嚥下障害	成人期・老年期の摂食嚥下障害	脳卒中・神経筋疾患・認知症と摂食嚥下障害	6, 7	永尾
9	リスクマネジメント	病態把握と緊急時の対応	バイタルサイン・誤嚥・窒息・吸引	8	永尾
10	摂食嚥下リハビリテーションの実際	スクリーニングテスト	発達期の摂食嚥下機能の評価	1, 8, 9	永尾
11	摂食嚥下リハビリテーションの実際	スクリーニングテスト	成人期・老年期の摂食嚥下機能の評価	1, 8, 9	永尾
12	摂食嚥下リハビリテーションの実際	摂食嚥下訓練	基礎訓練	1, 8, 9	永尾
13	摂食嚥下リハビリテーションの実際	摂食嚥下訓練	摂食訓練	1, 8, 9	藤本
14	摂食嚥下障害に対する食事指導	食事指導の実際	発達期・成人期・老年期の食事指導	1, 8, 9	藤本
15	口腔衛生管理	口腔衛生管理の実際	発達期・成人期・老年期の口腔衛生管理	1, 8, 9	藤本
16	薬剤と嚥下障害	服薬の基礎	内服薬の服薬管理	1, 8, 9	藤本

教科書

参考書

試験の受験資格

3分の2以上の出席

成績評価の方法

授業態度、出席状況を加味して、学期末試験成績を主に評価し合否を判定する。100点満点中60点以上を合格とする。

備考

科目分野	選択必修科目		科目名	救急蘇生法	
学年	3年次		学期	前期	
時間数	16 時間 (90分 × 8回)		単位数	1 単位	
授業形態	講義		使用場所	2F教室(3),4階講堂	
担当教員	吉田秀夫	大学病院で歯科医師として実務経験あり			
授業の目的(GIO)					
歯科診療時に発生しやすい患者の様々な全身的救急状態に対して対応出来る知識と手段を身に付ける。					
授業の概要					
バイタルサインが示す全身状態の状態を把握する。その変動に関与する生理現象を理解する。各種基礎疾患の概要を知り、歯科診療中に起こりやすい救急状態とその対応法を学ぶ。					
到達目標(SBOs)					
<ol style="list-style-type: none"> 1. バイタルサインの正しい測定法とその生理を理解する。 2. 意識状態の客観的判定法を知る。 3. 死の3兆候、脳死について知る。 4. 脳貧血発作、高血圧発作、嘔吐反射、てんかん発作、過呼吸発作等起こりやすい異常とその対処法。 5. 救急専門病院に直ちに搬送が必要な異常と搬送までの処置について理解する。 6. 他科の投薬内容で歯科治療上問題となる薬物に対応する。 7. 採血、静脈注射、点滴法を理解する。 8. 歯科診療中に起こりやすい医療事故とその対応を理解する。 9. 一次救命処置の流れを説明することができる。 10. AEDの使用手順を説明することができる。 11. AEDを操作することができる。 					
授業計画					
回	大項目	中項目	内容	到達目標	担当教員
1	バイタルサイン	脈拍、血圧、呼吸、体温	意義と測定法	1.2.3	吉田
2	〃	〃	自律神経の役割	1.2.3.	〃
3	診療中の各種発作	デンタルショック等	対応方法等	4	〃
4	診療中の救急搬送	脳卒中、心筋梗塞など	搬送までの対応	5	〃
5	自科薬物処方	薬物添加文書の見方	副作用の対応	6.7.8	〃
6	他科薬物処方	抗血栓剤、抗骨粗鬆剤	抜歯後出血、骨壊死	6.7.8	〃
7	救急蘇生法	救命講習 実習	成人に対する心肺蘇生法 AEDの使用法	9. 10. 11	消防局員
8	〃	〃	異物除去及び大出血時の止血	9. 10. 11	消防局員
教科書					
参考書					
<p>歯科医のための救急処置マニュアル、第2版 見崎徹、伊東隆利、渋谷鑛編出版者：医歯薬出版 2008/9 イザと いうとき慌てない!必ず習得しておきたい歯科医院のための救命救急処置怡土信一著出版者：クインテッセンス出 版 2013/12 全身管理と救急蘇生法：歯科衛生士版、改訂著者：渋谷鈺監修出版者：学際企画 2010/12</p>					
試験の受験資格					
3分の2以上の出席					
成績評価の方法					
授業態度、出席状況を加味して、学期末試験成績を主に評価し可否を判定する。100点満点中60点以上を合格とする。					
備考					

科目分野	選択必修科目	科目名	内科学		
学年	3年次	学期	前期		
時間数	16 時間 (90 分 × 8 回)	単位数	1	単 位	
授業形態	講義	使用場所	3F教室(3)		
担当教員	大島康志、高橋安毅、鈴木直紀、馬木良文、上田由佳、田中治、谷憲治、日比野真吾				
	診療所で医師として実務経験あり				
授業の目的(GIO)					
臨床で遭遇する機会の多い全身疾患を系統的に分類し、疾患の概要と数値の読み方、歯科治療時の注意、治療中の偶発症と処置の他、歯科医院において実行すべき全身管理を学ぶ。					
授業の概要					
歯科診療を行う際、診療が全身に影響を及ぼしたり、また、全身疾患の症状が口腔内など歯科診療領域に認められることもある。歯科診療に必要な全身管理の知識を学ぶ。					
到達目標(SBOs)					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 症状、病態について説明できる。 2. 治療について説明できる。 3. 歯科診療における注意点を理解する。 4. 薬剤の副作用についてを理解する。 5. 歯科診療時での対処法について理解する。 6. 検査と数値について理解する。 7. 歯科衛生士が行うべき感染予防対策について、実行することができる。 					
授業計画					
回	大項目	中項目	内容	到達目標	担当教員
1	糖尿病	糖尿病について	糖尿病の概要及び歯科診療における注意点、対応について	1. 2. 3. 6	大島
2	循環器系内科、HIV感染症	高血圧、低血圧、血液疾患、HIV感染症	高血圧、低血圧、血液疾患、HIV感染症についての概要及び歯科診療との関連について	1. 2. 3. 4 . 5. 6. 7	高橋
3	病巣感染、呼吸器疾患	病巣感染、呼吸器疾患、喘息、アレルギーについて	病巣感染、呼吸器疾患、喘息、アレルギーについての概要と歯科診療との関連について	1. 2. 3. 4 . 5.	谷
4	神経・精神内科領域	脳血管障害、てんかん、認知症、神経難病について	脳血管障害、てんかん、認知症、神経難病についての概要と歯科診療との関連について	1. 2. 3	馬木
5	消化器内科	消化器疾患(食道、胃、十二指腸、肝臓)	消化器疾患の概要及び歯科診療との関連について	1. 2. 3	日比野
6	精神疾患	心身症、神経症、うつ病、院内感染	心身症、神経症、うつ病、院内感染についての概要及び歯科診療との関連について	1. 2. 3. 7	鈴木
7	循環器科内科	心疾患、アトピー性皮膚炎について	心疾患、アトピー性皮膚炎についての概要と歯科診療との関連について	1. 2. 3	上田
8	消化器内科	消化器疾患(食道、胃、十二指腸、肝臓)	消化器疾患の概要及び歯科診療との関連について	1. 2. 3	日比野
教科書					
歯科衛生士のための全身疾患ハンドブック 医歯薬出版株式会社					
参考書					
試験の受験資格					
3分の2以上の出席					

成績評価の方法

授業態度、出席状況を加味して、学期末試験成績を主に評価し可否を判定する。100点満点中60点以上を合格とする。

備考

講義は正装し、髪の毛は束ねること。居眠り、スマートホンの使用は厳禁。
生理学、病理学、臨床検査、看護学等を復習しながら、各講義前の予習をしっかり行い、授業に臨むこと。